

令和6年11月29日(金)

15:30～16:40

朝霞市立朝霞第一小学校

2階 なでしこ会議室

朝霞市立朝霞第一小学校 令和6年度第3回学校運営協議会

次第

- 1 あいさつ
- 2 これまでの学校経営について
- 3 学校評価について
- 4 協議及び懇談
- 5 その他

年間の予定

- | | |
|-----|--------------|
| 第1回 | 4月24日(水) |
| 第2回 | 6月8日(土) |
| 第3回 | 11月29日(金) 本日 |
| 第4回 | 2月28日(金) |
| 第5回 | 3月19日(火) |



朝一小だより

活気あふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年8月29日

児童数 586名



今日という一日は、明日という日の二日分の値打ちがある

校長 金子 二郎

2学期が始まりました。多くの児童が「あっという間に夏休みが終わってしまった」と感じているようです。特に今年は猛暑、災害とオリンピックが話題となり、連日の報道のせいか、私自身も時間が経つのが例年以上に速かったと感じています。パリでの2週間余りのアスリートの活躍が多くの感動を呼びました。ただ、時間の経過が速いのは、あながち豊富な話題のためだけではなくそうです。私の知り合いの中には、テレビドラマを2倍速で見るものもありますが、「コスパ」や「タイパ」が特別なものではなくな



りつつあるようです。脳科学者の西岡志さんは以前、次のように話していました。「タイパには短時間で大量に情報を取り入れることができるというメリットはある。ただし大人はよいかも知れないけど、子供がやってしまうとどうだろうか。創造性という意味では、時間を区切ると力を十分には発揮できないことがわかっている。創造性を発揮するためには、時間を短くし速い時間で考えると良いアイデアが出難いことがわかっている。大人でも『1分以内にこの商品名について良いアイデアを5つ出してください』と言われたら、焦ってしまい脳がストレスを感じた状態になってリラックスできず難しい。アイデアを出すときには脳全体を使う必要があります、リラックスしている必要がある。肩の力が抜け、緊張していない状態がリラックスしている状態で、歩いている時とか入浴している時とか人と話している時とか、何気ないときに良いアイデアが浮かぶ。タイパでやってしまうと創造性は発達しにくい可能性があり、使い分けることが大事。読書も、速読するのもよいがじっくり読む時と使い分けるのがよい。情報収集能力を



つかさどる脳の部分と想像力をつかさどる脳の部分が違う。両方鍛えないとどちらかだけが偏った脳になる。脳の構造として、言われたことは100%できるが、それ以上はやらない人がいる。それは創造性を発揮できない状態ということ。これからはAIができてしまう。これからの時代はAIができないところをできる人が活躍する時代である。だからこそ、子育てにおいてはタイパもいいけど、他の所も養っておいた方がよい。AIと将来争うことになる。タイパ、タイパとはほどほどにしておいた方がよいのでは。」

ジャーネーの法則は誰にでも当てはまるものであり、望むと望まざるとに関わらず大人になれば誰でも時間を思うように使うのが難しくなります。猛暑が終わり、これからは何かにじっくり取り組むのにより季節になります。自身の判断に責任を持たせた上で周りが急かすことなくじっくりと子どもに任せ、何かに集中する時間を大切にすることが、一人一人の成長に大きな意味を持ってくるのかも知れません。



時というものは、それぞれの人間によって、それぞれの速さで走るものなのだよ (ウィリアム・シェイクスピア)



朝一小だより

活気あふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年10月1日

児童数 586名



ワクワクするような世界に連れて行ってくれます

校長 金子 二郎

「暑さ寒さも彼岸まで」とはいうものの、今年の9月は半ばを過ぎても関東地方で猛暑日が記録され、熱中症への備えに気が抜けない日々が長く続きました。一方で、「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」といった10年前には使われなかった気象用語を毎日のように耳にするようになり、災害がもたらす想像を絶する被害も報道されています。それでも朝晩は過ごし易くなり、先日の中秋の名月もまた格別でした。



さて、「スポーツの秋」や「味覚の秋」に対し、以前に比べて印象が薄れつつある感が否めないのが「読書の秋」です。文化庁では読書の習慣について調べており、令和6年1月から3月にかけて全国の16歳以上の6000人に電子書籍も含めて1か月に読む本の数を調査したところ、1冊も「読まない」と答えた人の割合は62.6%にのぼりました。また、本を読んでいると答えた人を含め、読書量が「減っている」と答えた割合は69.1%にのぼり、こちらも過去最高となりました。日本人の「本離れ」は深刻になりつつあるようです。ところで、思想家でもある神戸女学院大学の内田樹名誉教授はその著書「だからあれほど言ったのに」(マガジンハウス新書)の中で読書について次のように述べています。

「読書の最大の教育的効果は、子どもたちを『外へ』連れ出すことにある。子どもたちはなかなか頑迷である。自分と同じ年齢や同じジェンダーや仲間たちの文化に深く繫縛されていて、その『檻』からなかなか出ることができない。この『居着き』を解除して、『檻』の外に出てゆくことが子どもの成熟にとっては必要である。でも、



『檻』から無理やり引き出す』ことはできない。無理強いをすれば、どこかで子どもたちに傷を残すことになる。あくまで『檻』から出るのは子供たち自身の自由意思によるものでなければならない。読書はそれを可能にしてくれる。本を読むことを通じて、子どもたちは今の自分とはまったく違う人の中に入り込むことを愉悦として経験できるからである。遠い国の、違う時代の、年齢も、性別も、人種も、宗教も、生活文化もまったく違う人の中に入り込んでいって、その人の身体を通して世界を経験すること、自我の呪縛、自分への居着きを解除する方法としてこれにまさるものはない。」先程とは別に全国学校図書館協議会が毎年行っている「学校読書調査」(2023年6月)では、小学生の平均は12.6冊で、10年前の2013年の10.1冊と比べると2冊以上増えているとのことで、ゲームに夢中になっているだけではなさそうです。「その本を読むと自分の原点に戻ることができる」という一冊をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。本を通じてお子様と様々な思いを共有できれば、本当に素敵な時間を過ごせるに違いありません。



本をよく読むことで自分を成長させていきなさい。本は著者がとても苦労して身に付けたことを、たやすく手に入れさせてくれるのだ。(ソクラテス)



朝一小だより

活気があふれ、心が躍い、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年11月1日

児童数 588名



夢をかなえるための準備

校長 金子 二郎

10月半ば過ぎまで半袖が活躍するなど、異常とも言える暑さが続く一方で、中秋の名月そして先月の十三夜と美しい夜空に秋の訪れが感じられます。校地中庭の金木犀の香りも季節の移ろいを教えてくれます。保護者や地域の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。昨今は夏と冬ばかりで春と秋があつという間に過ぎてしまう感が否めませんが、一小の児童も短い秋を味わうことができたらと願います。



先月12日には秋晴れに恵まれ、多くの保護者、ご来賓、地域の皆様にお越しいただく中で運動会を開催することができました。一生懸命走り、ひたむきに演技する姿を目の当たりにし、応援する大人もパワーを分けてもらえました。頑張った子供の中には勝負に拘る者も少なくなく、暑い夏の盛りから走ったり練習したりしてきた児童もいます。試合に臨むための準備について、パリ2024パラリンピックで見事に金メダルを獲得した車いすラグビー日本代表の池崎大輔さんが、8月に日本を発つ前に意気込みを聞かれ

次のような話をしています。「勝つために準備している。例えば『忘れ物をしない』。でも忘れ物をしない準備だけではなく、『忘れ物をした時にどう対応をするのか』という準備もしておかなきゃいけない。良いプレーのイメージだけではなく、『うまくいかなかったこと』も想定しながら、しっかり自分のメンタルがブレないような準備もしなければと思った。なんでも『100%にやろう、完璧にやろう』となった時に、うまくいかないとどうしても気持ちってブレてしまう。だからプレーも乱れてしまう。『パスミスは1回か2回はするだろう』『上手くいかない』こともあるけど、それを取り返すためには『もっともっとディフェンスでこうしていこう』といろんな準備をしている。うまくいかなかった時のネガティブなパターンも想定をしながら準備を進めている。そうしないと良いことばかりを頭の中でイメージしても、できなかった時には『どうしよう』とパニックになってしまう。できないとなった時にどうリカバーするのか。できないこともある、失敗することもミスもある。ミスもしっかり準備の一つとして考えに入れてお



きながらも、今までやってきたことに自信を持ってやることによって、しっかり自分自身のコントロールがうまくできるんじゃないかなと思う。」イメトレという言葉が一般的となりましたが、池崎選手は良いゴールイメージだけでは必ずしも夢がかなう訳ではないことを教えてくれます。運動会でも実力とそれまでの努力の積み重ねを遺憾なく発揮することができた児童とそうでない児童がいます。必要以上に結果に拘泥することなく、頑張った過程を子供も大人もその後の生き方に生かすことができればと思います。



日常生活でいい判断ができないやつに、グラウンドでいい判断ができるわけがない。(平尾誠二)



朝一小だより

活気あふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

・考える子
・やさしい子
・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年12月1日

児童数 588名



「聞く」「聴く」「観じる」

校長 金子 二郎

半月前まで日中は半袖で過ごせる日もありましたが、日暮れの早さにつられたのか急に冷え込みが厳しくなりました。ゆっくり虫の声を楽しむ余裕もなく冬が近づいているようです。紅葉や銀杏、桜の葉の色づきよりも最近では街のイルミネーションが冬の訪れを教えてくれます。11月になっても複数の台風が近海で発生し被害も報道されました。復旧に努めている中で師走を迎えている方々に思いを寄せなければと思います。一方、幸い新型コロナウイルス感染者の報告数は減りつつあるものの、他の感染症につ



いては注意が必要な状況です。保護者や地域の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。体調管理にはくれぐれもお気を付けいただければと存じます。

さて、2024年「新語・流行語大賞」30の候補が先月発表されました。私達を元気にしてくれたスポーツに関わるものも少なくありませんが、暗い話題にまつわるものも散見されます。特に「トクリュウ」「ホワイト案件」など、昨年度ノミネートされた「闇バイト」に関わるものが見られ、今年も未だに解決されていない根深さを感じます。先日はこのような事件で中学生も検挙されたと報道されていました。「なぜ犯罪に巻き込まれる世界に自分から飛び込むのか」という疑問を感じる方も少なくないと思います。個人的には、相手の話からその意図を的確にとらえる力を子供たちが急いで身に付けることが必要だと強く感じます。以前にも紹介しましたが、今はタイパやコスパが当たり前の時代ですから情報を発信する側はまず、受信してもらうことを優先します。他方、情報氾濫の社会では正しいかどうかは勿論、必要な情報か否かを受信する側が判断するのは容



易ではありません。内容の如何とは別に、「面白いかな否か」「分かり易いかな否か」、極端に言えば「長いかな短いかな」で選択的に情報を受信するおそれがあります。クリアカットで端的な話が誤った情報であることは少なくありません。「失敗しても簡単にリセットできるから大丈夫」「相手とのやりとりも通信を遮断すれば心配ない」と現実の人間関係をバーチャルなものと同様に捉えているのなら大変心配です。社会で

の時間的な経験値の多寡を考えれば、自分にとってどの情報が必要なのか、あるいは危険なのかを的確に判断する評価基準を、10代前半の子供に求めるのは簡単なことではありません。であるなら、分かり難くても、面白くなくとも、場合によっては長くてもまずは相手の話を全力で聞いてみるという習慣を身に付ける必要があると思います。漫然と「聞く」のではなく心から「聴く」、あるいはまさに観世音の如く五感をフル活用して相手の話（意図）を「観」じる力を身に付けることができればと願ってやみません。



相手の言葉を自分の言葉に置き換えながらきくことで、相手の主張の本質が見える。（橋下 徹）